

北陸発！ 明日への挑戦



中小企業基盤整備機構（中小機構）では、地域を元気にする各種支援事業を展開しています。毎月第4火曜日のこのコーナーで、中小機構の各事業の内容や事例について取り上げていきます。

かつて「越の国」と呼ぶ新ブランド「おいしはれた北陸（福井、石川、イキッチン）をプロデュースする二口誠一郎氏を塾長に「広域連携によるものづくり」をテーマとした生活用品を世に送り出してきた。しかし、生て、少人数で短期集中的に生活スタイルの変化や海外に実施した。

塾生の反響は大きく、中小機構ではさらにものづくり研究会の立ち上げを支援することとし、そのキックオフとして08年9月に東京・表参道のテストマーケティングイベント「Shoppin' Rin」で企画展「ひびきあう 越の国」を開催し、越の国展「ひびきあう 越の国」の背景や理念などモノ語り性を丁寧で紹介し好評を得た。引き続き各県

で普及セミナーを開催し、09年5月に4県の22事業者を会員とする越の国倶楽部の設立に至った。中小機構では設立後も同倶楽部を支援している。

複合体でブランド形成

会員の業種は、伝統工芸や食品関係等様々であるが、会員は異業種（垂業種）の連携による新しい発想の商品開発が可能

イフスタイルの提案ができるようにする。また、「モノ語り性」をしっかり発信し、使い手（消費者）との交流も重要視するといふ。さらに、戦略的な販路開拓を行い、売れる仕組みを構築することを目指す。

本日より企画展開催

中小機構は倶楽部と共同で、企画展「ひびきあう 越の国」の「ものづくり」を2月23、26日の間、前出の「Rin」にて開催する。今回は「夏」をテーマに具体的なシーンを展開し、より商品を実感できるようにする。各会員も交代で説明にあたり来場者と交流するという。

広域連携で新ブランド創出を

との価格競争により状況は厳しい。このような中、意欲あるつくり手達は、新たな可能性への挑戦をはじめた。

新たな連携のカタチ

倶楽部の端緒は、07年に中小機構北陸支部の企画した「地域つくり達人指南塾」にある。この塾は、福井で企業連携に



企画展「ひびきあう 越の国のものづくり」の様子

性を感じている。連携の際に重要なコーディネーター（元塾長二口氏）への信頼は厚く、会員相互の信頼関係もあり、会合はいつも賑やかだ。広域連携によるものづくりでは、各企業が統一的なコンセプトに基づき商品を開発することにより、これらの商品群が「越の国」ブランドとして

今後が期待される。

お問い合わせは、中小機構北陸支部地域振興課

《越の国倶楽部事務局》

076-2233-5805

5)まで。